

ふれあいひろば



[患者とともにある全人的医療]

五大がん市民公開講座

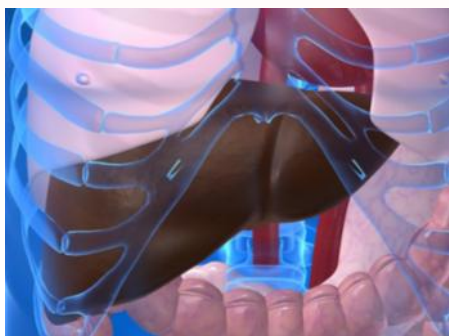
肝細胞がんの治療戦略～内科的治療を中心に～



新潟市民病院 消化器内科 和栗 暢生

「肝細胞がん」とは、その名のとおり肝細胞から発生し、原発性（肝臓から発生する）肝がんの90%以上を占めるものです。B、C型肝炎を背景に発生するものが約8割ですが、近年は非B非Cの肝細胞がん発生が増加しており、そうした非B非C肝細胞がんには常習飲酒や糖尿病が背景にあることが殆どです。これまでは慢性肝炎、肝硬変患者を囲い込んでいた肝細胞がん対策では不十分で、広く糖尿病患者までも肝細胞がんスクリーニングの対象にしていく必要があるとも言えます。

肝細胞がんの治療には外科的治療（移植、肝切除手術）と内科的治療があります。内科的治療はさらに、ラジオ波焼灼療法(RFA)やエタノール注入療法(PEIT)などの主にエコーガイドで腫瘍を穿刺して治療する穿刺治療、肝動脈化学塞栓術(TACE)や肝動注化学療法(TAI)などのカテーテルを用いたIVR治療、全身化学療法に大別されます。外科的肝切除や内科的な穿刺治療は、物理的治療であり、薬剤の効果や耐性などに関わらず一定の効果を得られることが最大の特徴で、根治をめざす治療になります。また背景の肝細胞は門脈血流支配、肝細胞がんは動脈血流支配であることを利用した肝動脈化学塞栓術(TACE)や肝動注化学療法(TAI)はまさに肝細胞がん特有の治療であり、特に多発の肝細胞がんでは反復治療により予後を改善させることができます。



肝細胞がんの治療方針は「がんの進展度」とともに「肝予備能」をもとに決定されますが、そのことはすなわち、同じ部位

の同じ大きさ、数のがんであっても肝予備能によって治療が異なることを意味します。また肝臓の深部にあるがんと辺縁にあるがんでは切除範囲も異なるし、RFAに適した小さながんでもエコーで見えない部位にあれば治療できない、など解剖学的部位によっても治療は実際異なってきます。全摘できない「肝臓」という生命に欠かすことのできない臓器に発生し、また背景肝の多くは慢性肝炎や肝硬変という疾患を抱えていることから、患者さんに応じた個別的な治療が必要で、胃がんや大腸がんのような明快な診療ガイドラインによる治療の標準化・画一化がなされにくいのが現実です。肝細胞癌の治療は、他のがんと比較して非常に多くの種類の治療法があり、がんの状態や経過に応じて次々とアイテムを繰り出して、あきらめずに集学的治療を行っていくことも可能です。当科でも、このように患者さんの個別の状態（がんの性格、進展度、解剖学的部位、背景肝の予備能力、これまでの治療経過など）に合わせて最善の治療を行うべく努力しています。



＜救命救急・医療体験セミナー＞

救急科 田中敏春

夏休み真只中の8月4日、当院で救命救急・医療体験セミナーを開催しました。当日は、新潟市内の中学校から合計12名の生徒さんが参加してくれました。冒頭に参加生徒さんお一人ずつ自己紹介をしてもらいましたが、生徒さんの多くが「将来、自分は医療分野に進みたい」と明確に将来のビジョンを語ってくれたことに、大変しっかりしているなど感心しました。自身の中学生時代とえば、ただただ夏休みを遊びほうけていたことを思い出し、思わず恥ずかしくなりました。

セミナー前半部は主に施設見学で、生徒さん4名を1グループとしてそれぞれ①救急外来（ER）とドクターカーの内部見学、②屋上ヘリポート見学、さらに③DMAT（災害派遣医療チーム）ユニフォーム試着、をそれぞれローテーションしてもらいました。救急外来では、心肺蘇生のために使用する自動心臓マッサージ器や身体の中の異常を即座に診断できる超音波検査装置や断層写真（CTスキャン）撮影室内を見学、ドクターカー車内では、実際に患者さんが、搬送するために横になるストレッチャーの上に寝てもらい、車内に搭載されている最新医療機器を見学してもらいました。DMATユニフォーム試着実習では、自身がDMAT隊員である管理課職員柳沢さんのご協力を頂いて、DMAT出動経験の講義もしてもらいました。



てもらえ、参加してくれた生徒さん達にとっても好評だったようです。

セミナー終了後のアンケート結果では、「普段見ることができないERやドクターカーなどの仕事の仕事を見ることができて良かった」や「今の医療が進化しているのが分かって面白かった」などの感想をいただきました。さらに生徒さんと一緒にご参加いただいた保護者の方からも「子供と一緒に心肺蘇生法を体験させてもらったことで、万が一そういう事態に遭遇した時には、自信を持って人助けができると思います」とのコメントを頂戴でき、企画者として大変嬉しく思いました。今回参加してくれた生徒さんの中から、10年後に市民病院で勤務してくれる職員が出てくれることを期待しています。



セミナー後半部は、医療の実体験として

- ①AEDを用いた“手だけの（心臓マッサージだけの）”心肺蘇生法実習
- ②超音波による体内観察体験
- ③ギプス固定体験

をそれぞれ体験してもらいました。いずれの見学・実習も、普段なかなか入ることができない施設を見学できるとともに実際の救急医療の一部を実体験し





「～知って楽しむ～市民病院ふれあいまつり2012」 開催のお知らせ

市民病院ふれあいまつり実行委員会

- ★ 期日 平成24年10月14日（日） 午前10時～午後3時（今年は日曜日開催です！）
- ★ 場所 外来ホール1階、2階外来フロア、4階講堂 他
- ★ 内容
 - ◆整形外科、循環器内科、消化器外科の医師による講演会
 - ◆捻挫の応急処置講習会、腹腔鏡操作・縫合体験（小学校高学年～高校生向け）、
 - ◆耳の聞こえ・鼓膜についての説明、AED体験、お薬調剤体験、治験薬について、
 - ◆大人の予防接種についての説明、身体測定、リハビリ展示説明・体験、
 - ◆ミニ検診&看護相談、家庭でできるキッズセーフティー、手洗い名人
 - ◆病院探検、ドクターカー展示、フードコーナー など

詳細は、10月7日（日）市報にいがたをご覧ください。

また、病院ホームページ、院内掲示ポスター・チラシにて随時お知らせします。

皆様のご来場をお待ちしております！

多くいただいた質問にお答えします

Q：なぜ、予約制なのですか？

A：本院は、地域の医療機関（かかりつけ医）から紹介された患者さんや救急医療などの重症な患者さんを中心に医療を提供しています。そのため、外来患者さんの待ち時間を少しでも短くするために予約制にしております。

Q：初めて受診するときは、紹介状が必要なのですか？

A：できるだけ紹介状をお持ちください。紹介状がない場合には、初診時に保険外併用療養費として2,100円が必要になります。また、整形外科、産科・婦人科、内分泌・代謝内科、耳鼻いんこう科、血液内科は、紹介状がある方に限らせていただいております。

紹介状には、これまでの患者さんの病状や治療経過などが書かれており、正確でスムーズな治療が行えるとともに患者さんの負担軽減につながります。

Q：診察の後、なぜ外来受付で待たされるのですか？

A：各外来受付では、診療が終了した後に診療費の算定を行い、自動精算機や医事カウンターでのお支払いを案内しています。算定処理を行う際、診療行為の内容について確認が必要であり、その為にお時間をいただく場合があります。正確な診療費の会計に必要ですので、ご了承ください。

皆様から良い評価のご意見をいただきましたのでご紹介します

「患者に寄り添い、支え助ける皆様の姿に頭の下がる思いをしました。大変なご苦労、ストレスを物ともせず、明るく優しく患者と接する毎日を目の当たりにし、皆様のご健勝とご活躍をお祈りするばかりです。」

「手術後で動けない時、ボランティアの皆さんが巡回図書をしてくれた。痛みも退屈も忘れ、本に夢中になり退院を迎えることが出来ました。」

「親切で何でも相談にのっていただき、とても心強く、入院するなら又この病院に来たいと思います。」

「緊急入院した際、手際良い処置対応に感謝申し上げます。改めて救急医療の大切さが身にしみます。親切・丁寧な対応に本当に頭が下がる思いです。同室の患者さんに心から尊重された看護がなされ感動しております。皆様方のご苦労・使命感には深く感謝致します。」

今後も、皆様の期待にお応えできるようにサービス向上に努めて参りたいと思います。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

登録医の紹介

医院名： 谷外科医院 院長 谷 久
診療科目： 外科、整形外科、皮膚科
住 所： 〒950-2121 新潟市西区榎尾100番地
電 話： 025-262-1401
診療時間： 月～水・金 9：00～13：00、15：00～18：00
土 9：00～13：00
休 診 日： 土曜午後、木・日曜・祝日
自院特徴と診療方針：



医院名： 茅原クリニック 院長 茅原 保
診療科目： 産科、婦人科
住 所： 〒955-0823 三条市東本成寺12-14
電 話： 0256-31-1103
診療時間： 月火木金 9：00～12：30 15：30～17：30
水・土 9：00～12：30
休 診 日： 水・土曜午後、日曜・祝日
自院特徴と診療方針：



当クリニックは「やすらかな良いお産と女性のためのプライマリーケア」を基本理念に掲げ、自然分娩を尊重しております。特にお産へ向けてのこころの準備とこころのケアに重点をおきプレママさんへの産前教育に力を注いでおります。

医院名： かとう心療内科クリニック 院長 加藤 佳彦
診療科目： 心療内科、神経科、精神科
住 所： 〒950-0121 新潟市江南区亀田向陽1-3-35
電 話： 025-382-0810
診療時間： 月～水・金 9：00～13：00 15：00～18：00
(水のみ19：00まで)
土 9：00～13：00
休 診 日： 土曜午後、木・日曜・祝日
自院特徴と診療方針：



うつ病、パニック障害、強迫性障害などの心の病気の治療をおこなっております。心の病気は特別なことではなく、誰もが経験する可能性のある現代社会の「心の不調」です。

グループ療法もとり入れ、最近増えているギャンブル依存症、アルコール依存症にも対応しております。



市民病院のホームページもご覧ください
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

新潟市中央区鐘木463-7

電話 025 (281) 5151 (すばやい受診こいこい)

予約センター 025 (281) 6600 (すばやい予約ろくろくぜろぜろ)

編集後記

9月になっても暑い日が続いて、今年の暑さは異常ですね・・・！
急に寒くなった時に、体調を崩さないよう
ご用心ください。

(K.E.)